

29年5月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 5月1日～ 29年5月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
仕入 動向	国産材製材品	6.3	25.0	25.0
	外材製材品	25.0	12.5	18.8
	構造用集成材	43.8	25.0	37.5
消費 動向	国産材製材品	12.5	18.8	18.8
	外材製材品	18.8	0.0	18.8
	構造用集成材	31.3	12.5	25.0
在庫 動向	国産材製材品	25.0	0.0	6.3
	外材製材品	18.8	0.0	18.8
	構造用集成材	31.3	6.3	18.8

・プレカット加工部材の仕入、消費、在庫は、総じて増加で推移。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/5月	6月	7月
受注	31.3	25.0	31.3
加工	25.0	25.0	37.5
受注残	12.5	△ 12.5	0.0

・プレカット工場の受注及び加工は、3カ月連続で増加。受注残は5月の増加、6月は減少、7月は横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・外材製材品、構造用集成材の消費が増えてくるので、これに合わせて仕入は増加。消費は、先月、国産材製品を多めに消費した分、5月の消費が減。在庫は、国産材は納期が見えるのでコントロールしやすい。外材製材品・構造用集成材（主に外材）は輸入品のため在庫動向にバラツキがある。

・仕入は、多少合板の入荷がスムーズでない。在庫は多少余裕を持った。

(受注動向)

・受注は5月、6月とも横ばいと思われる。増加がみられるのは7月からと思われる。

・受注、加工、受注残とも落ち着いている。